

# JUNKO NEWS

患者サポートセンター特集号!!

No.80

2023 / 07

「患者さんにご家族の相談窓口」

◇ 病診連携 ◇ 相談支援 ◇ 入退院支援

治療と仕事の両立支援 — 事業所の訪問を始めました —



患者さんにご家族、地域の連携施設の方々の「声をきき」、  
みなさまの持てる力や強みを「信じて」、  
適切な支援に「つなぐ」ことを大切にしています。

## 患者サポートセンター がん看護専門看護師 山戸千枝

循環器・呼吸器系疾患の高度専門病院として、県民の健康を守り心の支えとなる病院であり続けるためには、地域の医療・福祉・介護施設との緊密な連携が重要です。患者サポートセンターは、センター長である副病院長のもと、事務員・看護師・社会福祉士が、地域と院内に向けた相談窓口として、「病診連携」「相談支援」「入院支援」の3つの役割を担っています。

私たちは、大切な患者さんをご紹介頂いた先生方から託されたバトンを院内で確実につなぎ、安心して治療を受けて頂いた後は、再びご紹介元の先生や、リハビリを行う病院などにバトンをお渡しできるよう努めています。地域包括ケアシステムの中で、地域から当センターへ、再び地域へと療養の場が変化していく患者さんとその家族を、一貫してサポートする体制を整備しておりますので、その役割についてご紹介致します。

## 相 談 支 援

—不安から安心へ  
—一緒に考えましょう—

病気になると不安が尽きません。お金のこと、お仕事のこと、ご家族のこと…。自分のからだのことで精一杯ななか、治療と生活は続いています。相談支援担当の社会福祉士と看護師は、患者さんの生活に視点を置き、困りごとの解決に向け一緒に考えさせて頂きます。社会制度の利用や、在宅療養を続けるための準備など、院内外のあらゆる支援者・窓口と連携し、患者さんにご家族が安心して治療を続けていけるよう支えます。わからないことがある時、不安な時、困った時には、私たち相談員がいます。どうぞお気軽にお声がけください。

医療福祉相談員 安藤江利子

## 病 診 連 携

—地域の医療施設と住民の  
医療ニーズに応えるために—

病診連携は、地域医療体制を構築する上でとても重要な役割を担っています。具体的には、患者さんがスムーズに医療を受けられるよう、当センターと地域の医療施設と患者さんの病歴や治療情報などをやり取りしています。また、地域の医療ニーズを把握するために地域の病院・診療所を訪問し、症例検討会や、住民を対象とした健康啓発イベントを開催しています。地域の医療施設から信頼され、患者さんに安心して治療を受けて頂くために、病診連携の役割は重要性を増しています。

病診連携担当 茂木弘明



## 入院支援 退院支援

— 気がかりをひとつでも減らして  
納得して入院を迎えてほしい —

「入院…」初めてでも何度か経験していても、さまざまな気がかりが思い浮かぶものです。入院支援看護師は、入院予定の患者さんが気がかりをひとつでも減らして納得して入院を迎えられるよう、入院前に面談をさせていただきます。面談では、医師の説明の補足や入院・治療の説明など看護師からの一方通行の情報「提供」だけでなく、患者さんからも気がかりや分からないことを教えて頂く双方向の情報「共有」を大切にしています。例えばお食事のこと、お手洗いのこと、配慮して欲しいことなど、遠慮なく教えてください。薬剤師や管理栄養士、病棟看護師などと一緒に対応させていただきます。

— 退院患者さんの生活の安心のため  
切れ目のない支援を整えます —

専門的な急性期治療を終え、状態が安定した患者さんは退院を迎えます。患者さんご家族にとって退院は、嬉しいものである一方で、療養生活や介護などの心配事が出てくることもあります。退院支援看護師は、患者さんやご家族の抱える心配事を伺い、思いに寄り添いながら一緒に退院準備を進めていきます。患者さんが安心して住み慣れた家で生活を送れるまでの道のりは、当センターだけでは辿り着けないこともあります。そのような場合は、地域の医療・福祉・介護施設の相談員と連携し、切れ目のない支援を受けて頂けるよう療養環境を整えています。

入退院支援専従看護師 浅香富士子

教えて！  
患サポ!!  
患者サポートセンター

患者サポートセンターが日々皆さんからお問い合わせいただく事例をご紹介します。

Q 「父親が職場で倒れて、循環器・呼吸器病センターに救急車で運ばれました。脳卒中と診断され緊急手術を受け集中治療室に入っています。意識は戻りましたが、麻痺は残る可能性がある」と先生に説明を受けました。これからどうしたら良いか、どうなってしまうのか混乱しています。」

A 「脳卒中の多くは突然発症します。

朝元気だった家族の急な変化に驚き、混乱するのは、当たり前の反応です。大切なお父様の病状を医療チームと共に見守りながら、一緒に問題を整理していきましょう。お父様の病状や経過に応じ変化していく課題を、ひとつひとつ解決するため、多職種チームで支援させていただきます。」

患者サポートセンターには、患者さんやご家族が脳卒中にかかわる様々な困りごとについて相談できる「脳卒中相談窓口」を開設しています。相談は無料です。どうぞご活用ください。



# 治療と仕事の両立支援

## 医療相談員（社会福祉士） 関口友美

— 治療を受けながら働き続けることを支えます —

がん治療などでお仕事を休むとき、治療と仕事を両立させたいとき、不安に思うことがあると思います。

患者サポートセンターには、病気の告知を受けたり、治療が長期に及んでいる患者さんから、「もう仕事は無理かもしれない…」「治療に専念して仕事を休みたいけれど、長くなるとお金の心配が…」「会社に迷惑をかけるから病気のことは伝えてこなかったけれど、体力的に今の仕事は限界だと感じている。」などの相談が寄せられることがあります。

私たちは、働きながら治療を続けることを希望されている患者さんや、ご家族からの相談をお受けしています。そして、患者さんのご希望に応じて、当センターの担当医と職場・産業医とが連携して、治療をしながら働くことができるようサポートしています。病気の診断を受けて、早期離職を決断してしまう前に、治療と仕事の両立という方法について話し合いませんか？どうぞお気軽にご相談ください！



事業所を訪問し患者さんの様子を見学させていただきました。

地域で活躍している患者さんを通じて「つながり」を実感しました。

## — 事業所の訪問を始めました —

両立支援では、「就労の可否」を医学的に判断することが求められています。お仕事の内容や職場環境は、患者さんによって異なるので、正しく勤務情報を把握することが適切な両立支援につながります。勤務情報を正しく把握することは、医師の診察場面だけでは不十分な場合もあり、事業所より情報提供を受ける必要があります。つまり、事業所との連携がとても重要になります。

そこで、取り組みの概要説明と意見交換を目的に事業所訪問を始めました。病院の中ではお目にかかることのない、事業所の管理者、衛生管理者、保健師の方々へ、私たちの取り組みを説明させて頂く機会は、たいへん緊張しましたが、とても実りの多い貴重な体験になりました。患者さんの「働きたい」という意思をよりどころとしてつむがれる、新たな縁を大切にして、より質の高い支援につながるよう励んでいこうと思います。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構  
埼玉県立循環器・呼吸器病センター

Saitama Prefectural Hospital Organization  
Saitama Cardiovascular and Respiratory Center

〒360-0197  
埼玉県熊谷市板井1696 TEL048 - 536-9900  
<https://www.saitama-pho.jp/junko-c/>

循環器・呼吸器病センターのYoutubeも  
ぜひご覧ください

